

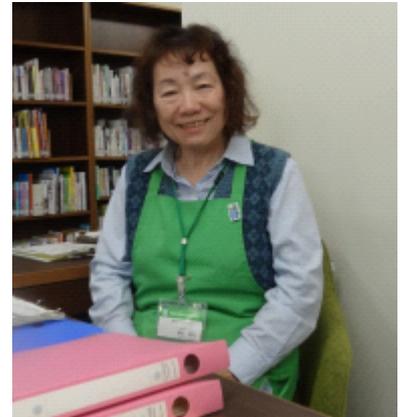
“ささやかでも”

澤田 道代（登録会員）

長年の会社勤めの後、3カ月の入院生活をへて健康を回復し京都府立医科大学附属病院の患者図書室“ほほえみ”が2012年11月よりスタートするのを三井V-Netを通じて知り、ささやかなお手伝いをするようになりました。

仕事をしている時は少々の事では倒れないと健康には自信を持っていました。今からおもえば自己過信もいいところでした。

若い頃英国で生活していた時、周りの親しい英国人達が色々なボランティア活動をしているのに接してきました。自分の専門を生かしての退職後のボランティア活動、また社会の弱者のために週末にボランティア活動をしていた人もいました。英国はおそらくボランティア活動の盛んな国の一つと思います。彼等の活動を日常的にみて、私も退職後はささやかでも何かをしたいと思っていました。



府立医科大学付属病院の患者図書室“ほほえみ”は、24時間オープンしているというあまり他ではないと思われる試みです。新しく購入した本で運営しているという事も“ほほえみ”の特長と思います。患者さんのご希望する本と、私達ボランティアが選ばせて頂いた本を年に数回病院に購入していただいています。

私達ボランティアの仕事は、患者さんとそのご家族への本の貸し出しや返却手続き、書架の整理そしてボランティア在室中はコンピューターを出して患者さんに使ってもらおうという簡単なお手伝いです。患者さんやそのご家族が罹患された病気の本を探すお手伝いをして、ご希望の本をご一緒にさがしたりすることもあります。私自身の長い病院生活を通じて、病室以外で“ほほえみ”と名付けた図書室という居場所がある事は心休まると思います。



患者さんもここがあったとノートにコメントしてくださる方もおられ、嬉しく感じます。週一度くらいの活動ですが、出来る限り長く続けたいと思います。